



28日「健康フェス」を前に

▷▷4

NPOやボランティアの活動を支援したアの活動を支援した

の伊藤一統さん(42)。豊富な経験と見識、手

に進めるため、市民一人一人がやれることをやる社会、新しい公共に向けて、かじを切る必要がある。「市民力をアップしない限り、行政は逼迫(ひっぱく)し、職員のとを実感すること、

かして、昨年から藤山ゆめ音楽祭をスタート。県人づくり財団の助成を受け、民生児童委員協議会(三元俊美会長、28人)と藤山ドリムコーラス(土屋俊雄会長、50人)が中

行政依存からの脱却を

“新しい公共”にかじ切る必要

知市市民活動サポートセンター”の運営に携わるなどの経験を持つ、宇部フロンティア大短大部保育学科教授

腕を買われ、各種審議会や市民活動団体のアドバイザーとして、引

担も増すばかり」と警告する。NPOは公共の担い手としての信頼度を高めるべきだし、

心となって取り組んでいる。昨年の第一回は幼児から高齢者まで約350人が出演。用意した600席が埋まる

Uターンした宇部の印象は「行政依存が強い

行政が信じて任せる気概も大切。指定管理に

育園から大学までそろ

伊藤一統さん



過ぎる」。業務を潤滑

も「経費削減ではなく、

う文教地区の特性を生

大切な参画意識や成員意識



昨年の藤山ゆめ音楽祭で合唱する藤山小の5年生 (当時、香川学園第1体育館で)

光明美講師から指導を受けるコーラスのメンバー。半ば。民児協も年配者が多いが、パソコンでのチラシ作製、学校回り、看板作りなど、各自が得意技を生かして、祭りを支えた。今年も学園祭と同じ11月18日に実施する。

仕掛け人の一人でもある伊藤さんは「手作り感満点の祭りでも、互いを知りたい機会にもなった。出費があるのも気持ちの張りになる。住民が自分たちの手でまちをつくるという参画意識や、私たちのまちという成員意識を盛り上げることで、心身ともに健康」と語る。(おわり) 〓この連載は松原典子が担当しました〓